

ウェリントン公の最期を見守った城

ウォルマー・キャッスル
を征く

1815年、ナポレオンの運命を決めた「ワーテルローの戦い」で、フランス軍を打ち破った鉄の公爵こと初代ウェリントン公爵。今号では、彼が死を迎えた「ウォルマー・キャッスル」を征くことにしたい。



ウェリントン公の寝室

「普通の人」であろうとした英雄

シンブルな装飾の部屋に置かれた、こじんまりとした布張りの肘掛け椅子。今から約百六十年前の九月、この椅子の上で初代ウェリントン公爵 1st Duke of Wellington (一七六九年―一八五二年) は八十二年の生涯を閉じた。

今回取材班が訪れたのは、ロンドンから車で約二時間半、イングランド南東の町ドーヴァーからも程近い海辺の城「ウォルマー・キャッスル Walmer Castle」。イングリッシュ・ヘリテージ(※)の一つであるこの城の二階には、現在も彼が亡くなった寝室が家具の配置もそのままに残されている。

ウォルマー・キャッスルは元々、イングランドがヘンリー八世の治下にあった十六世紀に、スペインの侵攻を防ぐために建設された要塞の一つだ。大きな円形の建物を中心に、さらに四つの円形の建物が連なるように配され、上から眺めると花の形に見える。とはいえ、周りには大砲が配備されるなど、石造りで無骨な姿であることに変わりはなく、城と聞いて想像するようなきらびやかさはない。

ウェリントン公の寝室で彼の人生に思いを巡らせると、率直な疑問がわいてくる。「ワーテルローの戦い」でナポレオンに勝利した偉大な指揮官が、なぜこれほど質素な部屋で最期を迎えたのだろうか。また、同時代に活躍したナポレオンやネルソン提督に比べ、どうして彼には控えめな印象が否めないのか。

これらの疑問の答えは、「謙虚さ」を美德としたウェリントン公の人生観にあると考えられる。彼の口癖は「私は普通の人間ではない、ということをお忘れなようにしなければ」であった。自分の功績を後世に残そうと躍起になることや、英雄ぶった派手なパフォーマンスを披露することを好まなかった。一番大切なのは、自分に与えられた任務を着実にこなすこと。これは彼が憧憬していた米初代大統領、ジョージ・ワシントンの誠実な姿勢に感銘を受けて築くに至った信条だという。

栄光の中でもおごらず、「普通の人」であることにこだわりの続けた、彼の人生を追ってみることにしよう。

※「イングリッシュ・ヘリテージ」は、イングランドの歴史ある建物、景観、遺跡などを保全する政府系組織

冴えなかったアーサー少年

疲れを知らない戦いぶりや、常に冷静沈着なその姿から「鉄の公爵 Iron Duke」と呼ばれたウェリントン公。少年時代からさぞかし真面目な優等生であっただろうと思いきや、実はそうでもなかったようだ。

一七六九年四月三十日、アイルランドはダブリンの貴族階級一家に、ウェリントン公はアーサー・ウエズリー Arthur Wesley (後に Wallisley と改名) として生まれる。父はモーニングトン伯爵ギャレット・ウエズリー、母はアン。アーサー

『ウェリントン・ブーツ』 誕生秘話



中央が、ウォルマー・キャッスルで見られるウェリントン・ブーツ

雨の日のお洒落アイテムとしても定番化した、日本で言ういわば長靴、『ウェリントン・ブーツ（通称：ウェリー）』。このブーツは、その名の通りウェリントン公が出したアイデアから生まれたものだ。

ウェリントン公は、膝上までであった当時のブーツに対して、膝裏部分が足に当たることから不快に思っていた。そこで、ロンドンの靴屋ホビー Hoby of St James's Street に、「膝下までの長さで、もっと足にフィットする、ヒールが低い、飾りのないシンプルなブーツ」をオーダー。戦闘時や乗馬時も動きやすく、温かく履き心地のよいブーツが誕生した。

現在はゴムで作られることが一般的だが、もともとは仔牛の革で作られた。ウォルマー・キャッスルのほか、ロンドンのウェリントン公の邸宅、アプスリー・ハウスで当時の現物を見ることができる。

はその三男だった。奇しくも同年、フランスのコルシカ島でナポレオンが誕生しているというのは、まるで運命のいたずらのようなものである。

イングリッシュ・アクセントを身につけさせたいという両親の希望もあり、アーサーは十二歳から英国の名門校、イートン校で学ぶ。しかし、成績は二流。母親のアンは、長男のリチャード（後に英国外交官、政治家となる）ら他の優秀な兄たちに比べ、のんびり屋で夢見がちだったアーサーに頭を悩ませていたという。

父親の死去に伴い、アーサーはイートン校を中退。アンは、今度はアーサーにフランス語を身につけさせようと、ベルギーに共に移住。だが、その後アーサーの将来性に光が見いだせなかったアンは、彼を「何とか兵士としてならやっつけていけるかもしれない」という程度の期待のもとに、さほど規律の厳しくなかったフランスの陸軍士官学校へ入学させた。

ところが、アーサーの軍人としての類まれな才能は、時を経てゆっくりと花開いていくことになる。アンは彼が

インドで培われた指揮力

将来英国史に名を残す指揮官になることは夢にも思わなかったことだろう。



城の周りに備えられた大砲に、学校の見学旅行で訪れていた子供たちも興味津々の様子。

アーサーは、十七歳で英国の第七十三連隊に入隊し、アイルランド議員として活動しながら、軍人のキャリアを地道に積んでいた。三十歳にならぬうちから欧州全土を征服する勢い

だつたナポレオンと比較すると、凡人の域を抜け出なかつた彼に転機が訪れたのは、一七九七年。インドの治安警備にあたるため、大佐として連隊を率い、現地に赴任することになったのだ。アーサーは二十八歳となっていた。

崩壊的な家庭生活

その後アーサーは、ナポレオン軍との対決を視野に入れ、三十六歳を前に約八年間のインド滞在を終え、一八〇五年に志願して帰国した。

この年はナポレオンが英国征服を目指して完敗に終わった「トラファルガーの海戦」で、ネルソン提督が殉職を遂げた年。アーサーはこの海戦にさ



宿命のライバル、ナポレオン・ボナパルト

先には輝かしい未来が見えたわけではない。しかし、「このインド時代がなければ、ワテルローの戦いで発揮された強靱な忍耐力、接戦での戦術などは身につけられなかったかもしれない」と後に本人が語っている。

当時のインドは英国の支配下にあったが、アジア遠征を睨むフランスによる干渉が頻繁に行われており、気性の激しい現地人が、すきあらば欧州人相手に暴動を起こすことも日常茶飯事。そのような厳しい環境の中で、アーサーは軍人として力をつけるべく、努力を怠らなかつた。

翌年には、兄のリチャードがインド総督に就いた関係もあり、彼の境遇は一変。昇進のチャンスにも恵まれる。数々の対戦を繰り返す中で、アーサーは指揮官としての経験値を積みめきと上げていった。一八〇四年には、三十五歳で自国からナイトの爵位を贈られるまでに出世する。

ウェリントン公の妻、キティ



また、アーサーの私生活でも大きな展開を迎える。

アーサーは、ダブリンでも名だたる良家の娘、キティ・パクナム Pakenham（一七七三年—一八三一年）が、まだ独身でいることを知り、求婚の手紙を送る。アーサーは、二十三歳の時に四歳年下の彼女にプロポーズしたものの、彼女の家族から彼に将来性が見られないことを理由に結婚を断られていた。それでも、今後ご家族の気持ちが変わることがあれば、あなたと結婚したいという私の思いは変わらない」と告げていたのだ。

それから、十年以上の月日が流れていた。アーサーの再度の求婚にキティが驚いたのも無理はない。しかも、彼女には既に婚約者がいた。一度は決めた結婚を破棄してよいものか、アーサーの妻としてうまくやっていけるのか、様々な不安が彼女を苦しめた。神経が憔悴するほど悩み抜いたキティだが、最終的にアーサーを夫に選ぶ決心をする。

長年の約束が果たされたロマンチックな結婚。一八〇七年、一八〇八年と続けて二人の男児にも恵まれる。しかし、アーサーが憧れていたという「温かい家庭」の夢は叶わなかつた。時を経て、キティは若かりし頃のような快活さを失い、感情的でプライドの高い女性へと変わっていた。しかも浪費癖があり、指揮官の夫を支えて家庭を守る、良妻賢母タイプとは到底言えなかつたのである。

ササッとできる ごくウマ3選

過去にご紹介したレシピの数々...

全てネットで公開中です

今夜の献立に、ぜひご活用ください。

www.japanjournals.com

ワンクリックで、
A4サイズに
即印刷!

アーサーが落胆したのは言うまでもなく、満たされない結婚生活の穴埋めを求めるかのように、アーサーは生涯を通じて多くの女性たちと浮名を流したという。

ただ、幸せな結婚とは言い難かったものの、アーサーとキティの愛が完全に冷め切っていたわけではなかった。キティがいよいよ死に伏そうかという時、アーサーの手を握っていた彼女は、彼の腕にあるものを見つめる。昔、キティがアーサーに贈った腕輪だった。「君が見たいと言ったらいつでも見せてあげたい」と思って、二十年間ずっと身につけていた。最後に二人が絆を感じあえた瞬間だった。

欧州の帝王との対峙

一八〇四年に「フランス人民の皇帝」となったナポレオンは、やがて英国・スウェーデンを除く欧州全土を制圧し、その栄光の絶頂を極めていく。その頃、南東イングランドのヘイスティングズで、少将として衛兵の修練を指揮する現役の軍人兼国会議員を務めるという比較的平穩な日々を送っていたアーサー。

しかし、一八〇七年からその人生は激動の時代へと突入する。アイルランド担当大臣に就任する一方、コペンハーゲンに遠征して宿敵ナポレオンと提携するデンマーク軍を撃破。さらに翌年からは、中將としてイベリア半島での半島戦争でナポレオンに抵抗するスペイン・ポルトガルの民衆を支援。ナポレオンの皇帝即位以来、初めて陸上でフランス軍に勝利を収めるなど、アーサーの指揮官としての手腕が大いに発揮される。

これらの功績が認められ、一八〇九年、アーサーは、「ウエリントン子爵」に任ぜられ、二年には伯爵侯爵へと、とんとん拍子に昇進。

一八一三年には元帥となり、ますます勢いづくアーサーと反比例するように、フランス軍はモスクワ遠征失敗などを経てみるみるうちに衰退

の途を辿る。そして一八一四年、とうとうナポレオンは退位に追い込まれた。「やったぞー」これには、さすがのアーサーも指をパチンと鳴らして喜んだと伝えられる。歓喜に沸く英国でも、アーサーの凱旋帰国を国民総出で歓迎。同年、彼は「ウエリントン公爵」(以後、本稿ではウエリントン公と呼ぶ)に叙された。

天下分け目のワーテルロー

その喜びもつかの間、ナポレオンの失脚後における欧州の行く末が討論された「ウエリントン会議」が行われる。ここでウエリントン公は、英政府の全権代理を務めるが、まさにフランス代表のタレーランが風刺した通り「会議は踊る、されど会議は進まず」。各国の主張は食い違えばかりで、舞踏会に明け暮れる日々だった。

ところが翌一八一五年、イタリヤ半島中西部のエルバ島に追放されていたナポレオンが脱出した、という衝撃のニュースが飛び込んでくる。

当時、ルイ十八世の即位により始まった王政復古の政治にフランス国

民は不満を爆発させていた。そのような状況の中、ナポレオンはパリに戻り、国民らの多大な支持を受け、皇帝として復活。

これに對抗し、「同盟国共同宣言」では、ナポレオンを打倒すべく英国はじめ諸国連合軍とプロイセン軍の派遣が決定される。ウエリントン公は連合軍の司令官として、戦場となるベルギーに急行した。

いよいよ六月十八日、「ワーテルローの戦い(左コラム参照)」が勃発。四面楚歌のナポレオン軍、長期にわたったナポレオン戦争を今度こそ打ち止めたいウエリントン軍、両者必死の接戦が繰り広げられた。

二人の指揮官は対照的だった。ナポレオンは、栄光を極めたころの天才的な勘に冴えはなく、戦いの最前線に自らは立たず他人任せにするなど、戦場へのストイックさを喪失。的確な状況判断や戦略もないまま、がむしゃらに突き進み続けたため、想定以上に戦力(兵士数)を消耗したことが痛手となった。

一方でウエリントン公は、寝食の時間も惜しみ現状を確実に把握する



ウォルマー・キャッスルの入口



「ワーテルローの戦い」でのウエリントン公と彼の愛馬、コペンハーゲン(中央)。主人と同じく根性と忍耐力を持ち合わせた同馬は、1812年～15年にウエリントン公の右腕として活躍。ワーテルローの戦いでも2日間休みなく主人と共に駆け回った。晩年は妻、キティが手元に置き、1836年に28歳で死去。その葬儀でウエリントン公は「最高のパートナーだった」と誇った。

ことに努める。防戦をベースにしながらも、相手のすきをついては攻撃をしかけ、確実に打撃を与えた。戦場を隈なく駆け回り、常に戦場の渦中で指揮をとり続けた。また、いかに犠牲者を少なくするかを最優先し、兵士たち一人ひとりに食糧、軍服、軍靴、装備などが十分に確保されるよう父親のごとく細やかな気配りを行ったことも彼らしい一面だ。

結果はウエリントン軍、プロイセン軍の勝利。これにより、復位から始まった百日天下は幕を閉じ、ナポレオンは南大西洋の孤島セント・ヘレナ島に終生幽閉されることとなる。

ウエリントン公がワーテルローの戦いで見せた卓越した指揮を誰もが絶賛した。運はもちろんだが、彼の戦略、タフさ、勇氣、努力あつての勝利であつたことは間違いない。

しかし、ウエリントン公の中には勝利の喜びに勝る感情があつた。

「これほど多くの犠牲を払って戦いに勝った時ほど悲しいことはない」

彼はワーテルローでの死傷者の一覧に並ぶ友人や部下たちの名前を見て、涙を止めることができなかった。その栄光をひけ

毎週木曜は「お弁当」+「ジャーニー」の日です。

毎週木曜日、美味しいお弁当と「週刊ジャーニー」を一緒にお届けしています。美味しい日本の味に舌鼓を打ちながら、インクの香りも鮮やかな、刷りたての「週刊ジャーニー」を読んでリフレッシュ。その後、一層バリバリと、お仕事にお励みください。

道頓堀商事 ロンドン支店 ある木曜の風景

係長: ナッチャン、今日、一緒にランチ、行かへん?
ナッチャン: 係長、今日はお弁当と一緒にジャーニーが届け日ですやん。
係長: あっ、せやったね。
ほな、明日のランチ、一緒にどや?
ナッチャン: 明日はサチコ先輩と約束が...
係長: ほな、来週の月曜は?
ナッチャン: 月曜は手作りのお弁当の日で...
係長: むー、火曜は?
ナッチャン: 火曜はセールでお買いものに...
係長: えーい、水曜は?
ナッチャン: 水曜は断食で...
係長: なっ、なんでや。ほな、木曜は?
ナッチャン: 木曜はジャーニーですやん。
係長: ほな、きつ、金曜は?
ナッチャン: 係長、何か、感じませんか?
係長: うん、ひしひしと...



「お弁当」+「ジャーニー」協力店・会社は下記の皆様です。

祭 St. James's
tel: 020 7839 1101
fax: 020 7930 7010
配達エリア
シティ*1, ヒカデリー周辺

蔵(くら)
tel: 020 7581 1820
fax: 020 7584 7794
配達エリア
シティのみ

夢源(ムゲン)
tel: 020 7929 7879
配達エリア
シティ*1

**舞フードさいとう
(さいとう庵)**
tel: 07866 609 015
配達エリア
シティ, ドックランド

**おたふく
ケータリング**
tel & fax: 020 8569 6519
配達エリア
ヒースロー-空港周辺,
メイフェア

J-Lunch Bento Box
tel: 020 7236 2641
fax: 020 7248 7799
配達エリア
シティ

満腹亭
tel: 07832 905 925
配達エリア
シティ, ドックランド

Kei's Catering
tel: 01895 254 484
07754 189 336
配達エリア
Uxbridge 近辺

アップルパイ(味夢)
tel: 020 8452 3954
fax: 020 8452 3020
配達エリア
アクトン, フィンチリー,
ヒースロー-空港周辺

寿司プラス
tel & fax: 020 8357 6265
配達エリア
イーリング, アクトン,
チズウィック*1

Japan Catering
tel: 020 8963 8464
配達エリア
ヒースロー-空港周辺*1

*各店・会社によって、配達できるエリア、最低個数等、条件が異なりますので事前にお確かめください。*毎週木曜日、ご注文いただいたお弁当と同数の「週刊ジャーニー」をオフィスまでお届けいたします。*1 その他のエリアはお問合せください。

ウォルマー・キャッスル ゆかりの著名人

1708年から、ウォルマー・キャッスルは五港長官 Lord Warden of the Cinque Ports の居城となった。

Cinque Ports (フランス語の5、サンク cinq が語源だが、シンク・ポーツと発音)とは、軍船の提供を条件にイングランド南東部の海防の責任を追った特権五港(ロムニー、サンドウィッチ、ハイズ、ヘイスティングズ、ドーヴァー)を指す。これら五港をまとめる五港長官は、16世紀ごろからその要職としての役割を失い、あくまで儀礼的な役職となった。しかし、君主から授けられる中でも大変名誉ある位とされている。



五港長官の旗。イングランドの象徴である3頭のライオンの半分が、船の形になっている。イングリッシュ・ヘリテージの管理下に置かれた場所には、通常は同組織の旗が掲げられるが、唯一ウォルマー・キャッスルだけは、この旗が掲げられている。

五港長官は、首相や英国の王室関係者から選ばれることが多いため、ウォルマー・キャッスルにゆかりのある著名人は多い。その中から3人を紹介しよう。

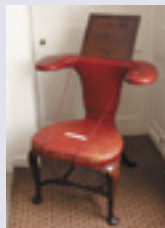
ウィリアム・ピット

William Pitt the Younger

24歳という史上最年少で英首相に就任したことで知られる政治家(1759年~1806年)、通称小ピット。チャタム伯ウィリアム・ピット(元首相、通称大ピット)の次男でもある。1792年から約14年に渡り五港長官を務めた。



城内には「ピット博物館 The Pitt Museum」と呼ばれる部屋があり、小ピットにまつわる展示品が並べられている。



賭け事の際に、前後反対を向いて座ったというユニークな椅子

W. H. スミス

William Henry Smith

大手ニュース・エージェントとしておなじみのW. H. Smithの創業者(1825年~1891年)。父親(同名)と協力しながら、鉄道を利用した新聞、本、雑誌の流通を進展させ、世界で初めてニュース・エージェントを誕生させた。その事業の成功を踏み台として、政治の世界にも進出。下院議長を務めていた1891年から五港長官を務めるも、その頃からすでに体調は芳しくなく、同年夏にウォルマー・キャッスルを訪れ、10月7日に同地で息を引き取る。



1年足らずという短い期間の在任ではあったが、彼はウォルマー・キャッスルにあるウェリントン公爵らにまつわる貴重な家財を城内にとどめておくために、それらを正式な法廷相続財産として保護する制度を作ることに尽力した。

クイーン・マザー

Queen Elizabeth The Queen Mother

現女王、エリザベス2世の母(1900年~2002年)。クイーン・マザーは女性初の五港長官として1978年から約10年任務に就いた。102歳の長寿をまっとうし、大らかで多くの人に愛されたクイーン・マザーは、毎年この城を訪れ、地元の人々とも交流を深めていた。101歳を迎えた年でさえも、7月にヘリコプターで同様に訪れ、週末休暇を楽しんだという。



また、クイーン・マザーは、庭の手入れにも大変力を入れていたことから、95歳の誕生日にイングリッシュ・ヘリテージからウォルマー・キャッスル内の庭園のひとつが贈られた。繊細なピンク色のバラ「クイーン・マザーズ・ローズ」などが見られるその庭園は、「クイーン・マザーズ・ガーデン the Queen Mother's Garden」=写真下=として現在も訪れることができる。



らかすでもなく、淡々と記された戦いの報告書には、彼の涙の跡が残っているという。

英雄から首相へ

ワテロローの戦いの後、ウェリントン公はまぎれもなく英国の英雄となった。その後、彼は政治家として活躍し、英国首相を務めるといって大出世を果たす

が、これは彼の政治的野心からというより、国王への忠誠心が強い彼が、トーリー党(現保守党の前身)の大幹部に推されたためである。しかし、西郷隆盛など多くの歴史上の人物がそうであったように、「優れた軍人が優れた政治家である」という相関関係はやはり成り立ち難いものだった。

ウェリントン公は政治家としての経験も豊富で、諸外国の君主や指導者たちとも親交があり、外交にも精通していた。ウェリントン公持ち前の実直さや度量の深さも政府に生かされるだろうと、新首相に人々は大きく期待した。

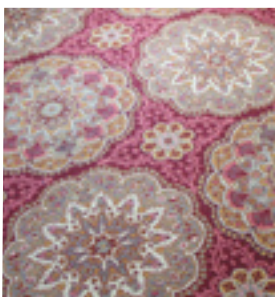
しかし、当時の彼には首相として、政

治家として、致命的な欠点があった。ウェリントン公は戦況と違って、英国の現状を直視しようとしなかったのだ。彼は成長期にフランス革命の恐怖を目の当たりにしたことなどから、今ある秩序を壊すことを恐れた。しかし、当時は産業革命の進展により、工場労働者が激増し、選挙権の拡大など、新たな時代の到来を国民が訴えた時代。それでもウェリントン公は世論に耳を貸さなかった。



一八三九年のウェリントン公

この彼らしくない一面には、その健康状態の悪さも影響していたのかもしれない。一八二二年に難聴(常に大砲や銃音にさらされる軍人の宿命といえる)の治療を受けたものの、その後の回復が思わしくなく、頭痛、胃痛、肩の痛みが苦しめられていたという。



ウェリントン公の寝室に敷かれた彼同様の椅子は、ロンドンにあるウェリントン公の邸宅、アプスリー・ハウスと同一のものに張り替えられている。

ウェリントン公は一八二八年から首相を務めたが、三〇年の十一月末に下院で内閣の不信任案が可決され、辞職。後任の首相、グレイ卿が提起した選挙法改正案にも異論を唱え続け、さらに国民の非難にさらされてしまう。その結果、一八三一年、妻キティが亡くなったわずか三日後であるにもかかわらず、ロンドンのハイド・パーク・コーナーに建つウェリントン公の邸宅、アプスリー・ハウスに、暴徒が石を投げ込むという事件まで起こった。

ウェリントン公は、首相を務めていた一八二九年、五港長官(右コラム参照)に任命され、約二十三年務め続ける。彼は、その居城であるウォルマー・キャッスルをたいそう気に入っていた。毎年秋にこの地を訪れては、城を「最も愛すべき海辺の住居」、城を取り囲む広大な庭園や森を「世界一素晴らしい」と賞賛した。彼は貴族階級でありながらも、質素、儉約を好んだ。この城の質実剛健な雰囲気は彼の好みにしっくりとはま

お気に入りの居城での死

続けたことには、彼の真面目な人柄があらわれている。



ウォルマー・キャッスルの森。ウェリントン公は晩年にも、この森を散歩しながら、「私は一人の人間でしかありません」と友人に話したという。

トラベル・インフォメーション

2010年9月14日現在

ウォルマー・キャッスル

Walmer Castle and Gardens
Kingsdown Road, Walmer, Kent CT14 7LJ
Tel: 01304 364288
入場料: 大人 £7.00、子供 £3.50
(オーディオ・ガイドは英・蘭・仏・独語)
www.english-heritage.org.uk

オープン時間

▶ 9月30日まで 毎日 10:00 ~ 18:00
▶ 10月、3月 水一日 10:00 ~ 16:00

※ 11月~2月、バンク・ホリデー、現在の五港長官が滞在する期間は休館。お出かけ前にウェブサイトでご確認ください。

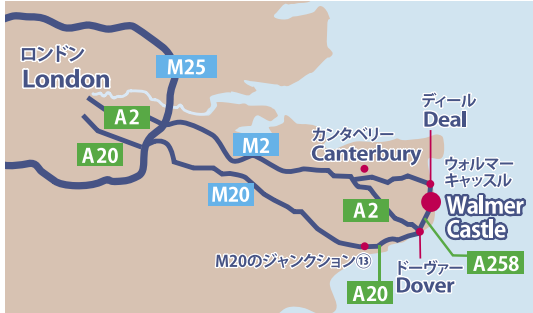
アクセス



ロンドンからはA2を経てM2へ入りDeal方面へ、またはA20からM20に入りジャンクション13で下り、その後A258に入ったらWalmer Castleのサインに従って進む。所要時間は約2時間30分。



ロンドンのSt Pancras駅からは30分おき、Charing Cross駅から1時間おきにWalmer駅まで電車が出ている。所要時間は約1時間30分。Walmer駅からWalmer Castleまでは1マイル。



ウェリントン公のデスマスク(死面)。口、顎部分が陥没している。当時の軍人は歯痛を防ぐために歯を全て抜いたためであるという。

十一月十八日にはロンドンの聖ポール大聖堂で、彼の功績に敬意を表し大々的に国葬が執り行われる。しかし、同大聖堂の地下にしつらえられた墓は、同所の身廊にあるウェリントン記念碑とは対照的に、彼の謙虚さを反映し飾り気がない。『習慣は第二の天性となり、天性の十倍の力を持つ』というウェリントン公の言葉が物語るように、彼は華やかで力リスマ的な指導者というより、『努力の人』だった。彼自身がそれ分かっていたからこそ、『普通の人』という姿勢を忘れぬよう、自らに言い聞かせ続けていたかもしれない。

ウォルマー・キャッスルの兄弟城 ディール・キャッスル

ウォルマー・キャッスルを訪れた後にぜひ立ち寄ってみたいのが、北に5分ほど車を走らせた場所にある「ディール・キャッスル」。ここはウォルマー・キャッスルと同時代に、攻撃用の要塞として建設された兄弟城だ。中に装飾などは施されていないが、要塞としての構造がよく分かるため興味深い。

これらの地が選ばれた理由は、①常に大陸からの圧力を受け続けたドーヴァーに近く、②付近の海岸から2~3マイル離れた場所に砂だまり(通称:グッドウィン・サンズ)があり、その間の深く、穏やかな海が船の安全な停泊所として利用できたため。

もう少し北には「サンダウン・キャッスル」と呼ばれる別の兄弟城もあったが、海の波による侵食が進み倒壊してしまった。これら3兄弟城は、1539年4月に建設が始まり、1540年9月には完成するという超突貫工事で築かれたという。

また、さらに大規模な要塞「ドーヴァー・キャッスル」も見ごたえがありオススメ。

※「ディール・キャッスル」「ドーヴァー・キャッスル」ともにイングリッシュ・ヘリテージ(www.english-heritage.org.uk)の管理下にある。



ディール・キャッスル Deal Castle

Marine Road, Dover, Kent CT14 7BA
Tel: 01304-372762
入場料: 大人 £4.50、子供 2.30



ドーヴァー・キャッスル Dover Castle

Harold's Road, Dover, Kent CT16 1HU
Tel: 01304-211067
入場料: 大人 £13.90、子供 £7.00

あなたのブログをジャーニーの
ホームページにリンクしませんか?

個人ブログ 大募集!!

現在、インターネット・ジャーニーへのアクセス数は月平均約11万。
あなたが発信している英国での生活に関するブログを、
今よりちょっぴり多くの方にご覧いただくためのお手伝いができるかもしれません。
営利を目的としていない個人のブログであれば、リンクはもちろん無料です。
お申し込みはインターネット・ジャーニー「個人ブログの部屋」をご覧ください。

※掲載にあたり、事前に一定の審査をさせていただきます。内容によってはリンクをお断りしなければならない場合もございます。予めご了承ください。

インターネット・ジャーニー

www.japanjournals.com